



1 はじめに

言語活動の充実、今日、全ての教育活動において進めていく必要がある。本校ではこの命題に迫るため、平成25・26年度の2年間に渡って、さいたま市教育委員会より教育課程の領域で研究指定の委嘱を受け、国語と算数の2教科を中心に研究を進めてきた。

ここでは、研究の全体構想から算数科での取組について紹介するが、目指す児童像を「生き生きと学ぶ子」「豊かに表現できる子」として進めた。

2 「目指す児童像」に迫るために

- 「生き生きと学ぶ子」とは
 - ・興味・関心をもち、生き生きとした表情で学ぶ子
 - ・進んで自分の思いや考えを書いたり話したりする子
- 「豊かに表現できる子」とは
 - ・自分の考えや思いを分かりやすく伝えることができる子
 - ・友だちの考えを聞いて、自分の考えと比べ、よりよい考えをもつことができる子
 - ・話し合う中で、より深い考えや思いをもち、表現することができる子

ととらえ、言語活動を通して思考力・判断力・表現力を児童にはぐくむことをねらいとした。

また、実効性ある研究としていくため、以下の4つを日々の授業で取り組んだ。

- ①板書の工夫（国語・算数）
- ②単元を貫く言語活動（国語）
- ③単元の系統と既習学習の活用（算数）
- ④振り返りの時間の充実（全教育課程）

3 「生き生きと学ぶ子」をはぐくむ算数指導

これまで以上にT Tや少人数指導を意図的・組織的に取り入れたことで、導入の工夫と個に応じた指導がより具体化した。

T Tでは、授業の導入で実生活に即した課題や興味・関心のある課題の提示を通して、児童の課

題意識・目的意識の獲得が容易になり、学習の見通しがもてるようになった。その結果、学習意欲の向上に繋がっている。

少人数指導では、習熟度別によるグループ編制（すらすらコースとじっくりコース）を適宜取り入れ、習熟度に沿った目標による授業展開が具体化した。児童一人ひとりの数学的な考え方をより深めていく授業とともに、児童の多様な考えを引き出す授業にも繋がった。知識・理解の定着に効果を上げている。



ICTを使用して説明する2年生（T T）

4 「豊かに表現できる子」をはぐくむ算数指導

算数の授業でも、国語の指導で効果を上げている「一人学び → ペア・グループ学習 → 全体交流」の学習の流れを計画的に位置付け、言語活動の充実を図っている。中でも自分の考えを図や式に表し、根拠を明確にした説明（発表）を重視していくとともに、順序立てた話し合い活動の充実にも力を注いできた。

また、T Tや少人数指導による学習を進めてきたことで、児童一人ひとりの思いや考えが発表しやすくなり、児童の考えを生かした授業づくりに結び付いている。



協力して説明する4年生（少人数指導）

5 おわりに

国語と算数を中心に進めてきた研究だが、どの教科においても、友達とかかわり合っていく児童が増え、進んで発表しようとする意欲が芽生えている。また、算数におけるT Tや少人数指導は、まだ途上の段階にあり、さらなる工夫改善は不可欠である。今後も言語活動の充実を通して、生き生きと学び、豊かに表現できる子をはぐくむ教育活動を進めていきたい。



ペア学習する6年生（少人数指導）